

あはうさ

いわくわい 35 フラ語
熱の森

特定非営利活動法人

熱帯森林保護団体 Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20

TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913

MAIL xingu@rainforestjp.com HP www.rainforestjp.com

[ご住所等ご変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです]

HOW TO HELP

年会費	大人	5,000円
	18歳以下	3,000円

年会費・寄付金振込先

口座名	熱帯森林保護団体
ゆうちょ銀行	郵便振替口座 00140-3-144187
三井住友銀行 東京中央支店	普通口座 7066247

※ 銀行振込の方は、必ずお名前とご連絡先を別途、当団体までご一報をお願い致します。

SOS!! 且ウサと下さい!

アマゾン支援のNGOを立ち上げて33年が経ちました。私自身、当初は何の知識もなくNGOという言葉すら周りに認知されず、この活動の説明をすることに苦労しました。ベルリンの壁が壊され、9/11や3/11等、多くの出来事が起り人々は外に向けての意識を感じせずにはいられない状況になりました。同時にスマホを通して多くの情報が安易に察知できる時代に入り、沢山の人たちの生活も良くも悪くも変化していきました。当団体はありがたいことにこの30年以上、支援事業の資金は企業事業助成への申請で得たり、個人の方が多額に援助して下さったり、会員の会費等で支援活動を展開してこれました。しかし、2019年暮の中国から端を発したコロナ禍は世界中をアッという間に飲み込み現在に至ります。当団体もその波を受け以前のような状況ではなくなりました。企業の助成金を得ることも難しくなり、さりとてアマゾン支援を継続している「消防団事業」と「養蜂事業」は成果が出始め、ブラジルでも高く評価され、あと数年は支援を展開しなくてはなりません。ブラジルは全ての物価が高騰し、追い討ちをかけるように円安に歯止めが効かず資金作りも厳しくどうしたものかと考えていた時に、若手の「ART Is. TOKYO GALLERY」のメンバーとの出会いがありました。

いずれ作りたい「アマゾンハウス」に飾ろうと考えていた私個人のコレクション、このアマゾンの工芸品たち、この子たちを手放し資金にする。この提案を「ART Is. TOKYO GALLERY」の方から受けた時、「そうだ! この工芸品がアマゾンを救う手助けをしてくれる」と直感し急遽、展示販売へと発展していきました。この機会に是非多くの方にご来店頂き、アマゾンの風を感じもらいたい。そしてこれらの工芸品はジャングルのインディオの人たちから支援事業の感謝として創作した貴重ものなので、博物館においても恥ずかしくないクオリティーの高いものばかりです。売上金は未知数なので、この企画以外でも是非多くの方たちからの応援をお願いする次第です。どうぞ当団体が存続出来ますように、アマゾンの自然が残ることにご協力頂けますよう、資金支援のお助けをお願いする次第です。どうぞ宜しくお願ひ致します。※会期中の金土日15:00~在廊しております。

(南 研子)



2005年から開始した「消防団事業」の成果

カヤボ族の長老ラオ一二やメガロンからの強い要望で始まったこの事業、既に20年近く前からインディオの人は、ジャングルの異変に気付いていました。雨期に従来の雨量が望めず、森の乾燥化と異常な高温に拍車がかかっていることを肌で感じ、このままだと熱帯林が火の海に化すことを察知し助けを求めてきました。インディオの若者が主体性を持って火災の防火と消火活動ができる組織作りの支援を頼まれ、マトグロッソ州軍消防署から専門家を招き、消防士であるインディオの若者に消火、防火のノウハウを教え実施しました。手作りの消防署をインディオ若者自らで建設し、火災が発生すると直ちに現場で命懸けの消火活動をしている消防士たちの姿を毎年現場視察して私は見てきました。彼らの活動は目をみはるものがあり、支援対象エリア14集落で火災発生が生じても速やかな消火で大火になりませんでした。これらの成果が外部にも伝わり、5月にマトグロッソ州軍消防署のメンバーが消防団の拠点で消火訓練の実施をしました。またブラジル環境庁に属するIBAMA:Prevfogo(森林火災対策インディオ消防団プログラム)の傘下に入る準備をし、精銳団員10名が参加できるまでに至りました。外部に活動を評価され、具体的な結果がでるまでの道のりは大変でしたが、消防士たちの更なる活躍に期待します。世界的な気候変動が深刻になっている現在、本当に小さなことかもしれません、具体的に且つ継続してアマゾンの森を火から守るこの事業を開始した意味があると実感しています。アマゾンの森は酸素供給源であり、私たちの暮らしと密接に関係していることをご理解いただけたらうれしいです。



マトグロッソ州軍消防署のメンバー



2021年の1年間で、アマゾンの熱帯林は13,225平方km(東京ドーム28万個分)消滅しました。この星の酸素供給減であるアマゾンの森を守ることは、全ての生きとし生けるものへの命をつなぐことになります。

■ 直感を信じて、できることをしよう!

浅葉 和子

2011年 東日本大震災による自然からの大警告！

2020年 コロナ禍の猛威が世界に蔓延。世の中が急変。

更に、気候変動による世界各地での山火事、洪水、大雨、気温の上昇による異常気象。

このような、地球が警鐘を鳴らす状況のなか、南研子さんは地球を支えるアマゾンの熱帯保護運動に33年の歳月を捧げてきました。地球上の酸素供給源であるアマゾンの森が無くなれば、生態系が崩れ、全人類にその影響が出てきます。一方、日本にいる私たちが何ができるのか？コロナ禍で世の中が急変し始めた時、地球という星の共同体が一つになって協力し合い、新しい生き方が生まれる時が来た、と一瞬希望の光を感じましたが、私たちは何を信じて、どう進むべきか、ますます見えなくなる現状がありました。それでも前に進み未来を作りたい。今、見えたもの・信ずるものは自分の直感。今、何が大切なか、自分の力で何ができるかを考えて進むしかない。物質文明の豊かさに惑わされて、失ってしまった先人たちの智慧を取り戻し、学び、今に生かし、未来の子どもたちに伝えていくこと。そんな思いから地元で1998年に発足させた金沢文庫芸術祭10周年に「先住民族広場」を作りました。スローガンは、「地球の未来は、子どもの未来」。

様々な、先住民族の方にもご参加いただいていますが、中でも、日本人が失った精神文化を持ち続けているアイヌの人々の生き方を学ぶことがとても大切であることに気づき、学びを続けています。また、ネイティブ・アメリカンから多くの学びを得ています。彼らの伝説の中に“虹の戦士”という物語があり、その中にある言葉を大切にしています。

《地球が病んで 動物たちが 姿を消し始めるとき みんなを救うために 虹の戦士たちが現れる》

信ずるものは自分の直感。自分が虹の戦士になってその心を伝えていくこと

世界中の 사람들이虹の戦士になれば戦争のない平和な世界が生まれます。

まずは自分が豊かな心で幸せを伝えていく人になりたいと思います。

浅葉 和子

68年より横浜市金沢区で子どものデザイン教室をスタート。子どもの本来もつ可能性をものづくりの喜びと自由な空間の中で育む教育を目指す。金沢文庫芸術祭 チーフプロデューサーを長く勤める。

金沢文庫芸術祭2022



ラオーニ基金



100歳に手が届きそうな高齢にもかかわらず、カヤポ族の一人として生まれ、アマゾンの森を守る使命を全うしているラオーニ。9月にフランスのNGOに招待されEU諸国を回る予定でしたが、体調を崩し中止になりました。検査の結果、ペースメーカーを入れる手術を早急にする必要があり実施し、成功しました。まだラオーニがこの世に存在し、森からのメッセージを伝え続ける役目があります。ラオーニの術後ケアの費用を助けてほしいとカヤポ族から切なる要望があり、多くの方にお助けのお願いを致した次第です。

2022年秋
ラオーニトメケムン

* ブラジル大統領選挙ゴルラ・タシレウが50.9%の票を獲得し、来年1月1日に就任するに至った。マゼンの凶悪犯罪にさがり、インディオの人たちがより持良く生きれる社会になることを切に望む。

2022年就任した理事と監事

理事 松田 ナオミ：MW ATLANTIS FACTORY 代表
監事 南 和男：プラサ「Wa」代表